

わが国では、2013年の統計で年間約一万人の女性が子宮頸がんにかかり約2700人が亡くなっています。罹患の最も多い30~40代で亡くなる人は年間600人以上にもなります。

子宮がんの発生メカニズム

HPVは、性交渉で感染する子宮頸がんの原因ウイルスです。

子宮頸がんは、子宮の入り口の子宮頸部とよばれる部分から発生します。普通の婦人科診察で観察や検査がしやすいため、発見されやすいがんです。

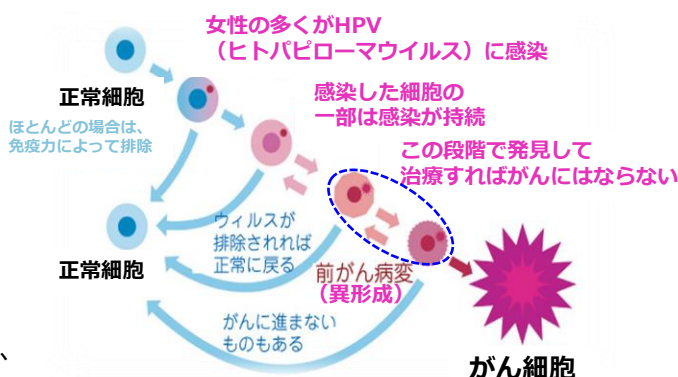
また、早期に発見すれば比較的治療しやすく予後のよいがんですが、進行すると治療が難しいことから、早期発見がきわめて重要といえます。

近年、子宮頸がんの原因が性交渉で感染する HPV (ヒト・パピローマウイルス) というウイルスであることが、解明されました。

HPVはコンドームを使用しても感染予防ができないこともあるので注意が必要です。

最近では、性交開始年齢の若年齢化が進んでいるため、20-30代の女性の子宮頸がん発生が増加しています。

発がん性HPV感染とがん細胞への変化



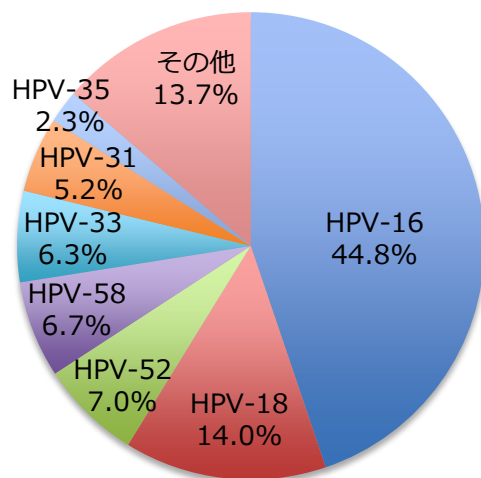
ほとんどのHPV感染は免疫力によって、自然に治ります。

HPVに感染したからといって、全てががんになるわけではありません。たとえ感染しても約70%で1年以内に、約90%は2年以内にHPVは自然消滅します。

しかし、感染が持続する人の中から前がん病変（異形成）が出現し、それが子宮頸がんに発展します。

感染から子宮頸がんに至る期間は平均10年以上とされていますが、個人差があり、免疫力が弱い体質などでは、数年で進行する場合があります。

このように、HPV感染が子宮頸がんに至る確率は決して高くはありませんが、それでも年間1万件もの子宮頸がんが発生していることから、HPV感染の有無を知ることがとても重要です。



日本の子宮頸がん症例でのHPV-DNA型の内訳

がんの原因となるDNA型とは？

HPVには、およそ100種類以上のタイプがありますが、子宮頸癌の原因になるのはその内の15種類です。

上の円グラフに示すとおり、日本人の場合、16型が占める割合が45%、18型が14%と、この2つで子宮頸癌の約60%を占めます。また、この2つのタイプは、早期に子宮頸がんに進展する確率が高いので、これらのDNA型のHPVウイルスに感染しているかどうかを調べるのがHPV-DNA検査です。

当センターのヒトパピローマウイルス (HPV) - DNA検査では、16型・18型及びその他のハイリスク群 (31,33,35,39,45,51,52,58,59,68,66) についての感染を調べます